

## 標準学力調査の分析と具体的な手立て【9年生】

### 【国語】

	教科全体	問題の内容別正答率						
		聞き取り	文学的文章の読解	説明的文章の読解	表現	語句・文法	漢字の読み書き	
期待正答率	52.8	88.3	51.2	30.0	48.8	37.1	67.8	
校内平均正答率	55.2	85.3	53.9	33.2	54.0	35.4	73.6	
校内平均正答率 - 期待正答率	2.4	3.0	2.7	3.2	5.2	1.7	5.8	
平成20年度 校内平均正答率 - 期待正答率								

### 【結果の分析】

ほとんどの領域で期待正答率と同じ程度の正答率であり、得点分布をみても極めて標準値を示している。本校9年生の国語に対する力は、現段階で標準であるといえる。

領域で見ると、表現・漢字の読み書きについて期待正答率より高い値が出ている。授業で繰り返し短い文章を書かせたり、こまめに辞書を引いたりする習慣が身についた結果といえる。

説明的文章の読解、語句・文法については、正答率が30%台と低い。論理的思考力を意識して育てるとともに、難意語の習得に努める必要がある。

### 【具体的な手立て】

漢字ステージや入試漢字ドリルを使用し、漢字の練習を日常的にさせる。その際、文脈の中で意味とあわせて覚えることを徹底する。習った漢字が使えるようにこまめに辞書を引ながら、自分の思いや考えをまとめる学習を単元の中に位置づける。

できるだけたくさんの文章を読ませ、筆者による論理の展開の違いや主張の述べ方を理解させる。また、その際に、一定時間内にある程度の分量の文章を読み通す練習をさせる。

長文問題の出題の仕方や解答の導き方について、授業で取り上げる機会を前年度より増やす。

学習の習慣のない生徒は個別に課題を課し、授業の進度に遅れないように指導する。教科書の音読や小学校漢字の復習が効果的と考える。

の数値が出た語句・文法の領域に関しては、現在7,8年の範囲の復習を進めている。さらに聞き取りについても、定期的に聞き取り問題に取り組む予定。

【社会】

		問題の内容別正答率									
	教科全体	世界の国々の調査	自然環境からみた日本	資源・産業からみた日本	人口・生活・文化・交通	江戸幕府の成立と鎖国	産業の発達と幕府政治	欧米の進出と日本の開国	明治時代	二度の世界大戦と日本	現代の日本と世界
期待正答率	53.2	43.9	50.2	44.5	68.9	46.7	40.7	66.1	54.1	56.1	37.1
校内平均正答率	43.8	34.3	43.9	39.6	57.3	37.2	30.1	54.1	54.1	57.5	29.5
校内平均正答率 - 期待正答率	9.4	9.6	6.3	4.9	11.6	9.5	10.6	12	0	1.4	7.6
平成20年度 校内平均正答率 - 期待正答率											

【結果の分析】

社会科全体として、期待正答率を下回っている。特に、8年生の学習内容はあまり定着していないと言える。

地理的分野では、人口・生活・文化・交通の理解が低い。

歴史的分野では、産業の発達と幕府政治と、欧米の進出と日本の開国が期待正答率を大きく下回っており、定着していない。

二度の世界大戦と日本は、理解がやや高い。

観点別正答率では、社会的事象についての知識・理解がやや期待正答率から下回っている。

【具体的な手立て】

早急に基礎的な復習が必要な状態であるので、昼のステップアップの学習を利用して、年間を通して7・8年生で履修した地理的分野、歴史的分野の総復習を行い、基礎的なことを繰り返し定着させる。

定期考査にステップアップでの学習内容を約20点分加え、7・8年生の基礎的な内容の確認ができるようにする。

ステップアップの学習を利用して、歴史検定対策とともに、歴史的分野の7・8年生の総復習を行う。

夏休みのサマースクールを利用して、今回のテストの定着度が低い生徒の学習指導を行うので、希望して欲しい。

夏休みの宿題として基礎的な地理・歴史の復習プリントを出す。

三学期には、3年間の総復習を授業の中で行う。

【数学】

	問題の内容別正答率						
	教科全体	式の計算	連立方程式	1次関数	平行と合同	三角形・ 四角形・円	確率
期待正答率	56.7	62.3	69.3	33.6	55.8	63.3	50.3
校内平均正答率	51.4	58.7	62.3	25.9	49.2	64.5	40.7
校内平均正答率 - 期待正答率	- 5.3	- 3.6	- 7.0	- 7.7	- 6.6	+ 1.2	- 9.6

【結果の分析】

受験者 164 名中、偏差値 50 以上が 64 名で 39% しかない一方、偏差値 40 未満が 40 名で 24% にもなる。全体として定着していないといえる。

式の計算においては、基本的な式の加減はできているが、式の値を求めること、文字式による説明の力が劣っている。数学的見方考え方の力をつけることが必要である。

連立方程式の解き方が定着していない。

1 次関数では、表現処理以前に知識理解の点で定着していない。

平行と合同では、平行四辺形の角、三角形の合同に関する知識が不十分であった。

円と角、平行線と三角形に関しては、おおむね定着している。

確率に関しては最初から復習する必要がある。

【具体的な手立て】

基本的な式の計算、式の値を求めること、等式の変形、文字式による説明は、日々の授業の最初の 5 分間を使って、繰り返し復習をしていく。

連立方程式は、しばらく学習しないと忘れてしまう生徒も多いので、定期考査に必ず出題することとし、定期考査前に定期的に復習をさせていく。

関数の分野は、生徒にとって一番理解しづらい領域である。サマースクールで復習の課題を準備すること、2 学期に入って放課後に補習を行うこと、9 年生の単元「 $y = ax^2$ 」の学習の前に比例・反比例とあわせて復習の授業を行うことの 3 点を実行する。

図形の学習も、間隔が開いてしまうと忘れてしまうことが多いので、基本的な計算と同様に、授業の最初の 5 分間を利用して、繰り返し復習を行っていく。

確率に関しては、得点上位者の中にも理解していない生徒が見られるので、2 学期後半か 3 学期に入って改めて学習をする。

【理科】

	問題の内容別正答率						
	教科全体	動物の生活 と種類	天気とその 変化	電流	化学変化と 原子・分子		
期待正答率	55.1	60.2	51.9	48.6	58.6		
校内平均正答率	41.1	52.6	29.7	46.6	35.6		
校内平均正答率 - 期待正答率	14	7.6	22.2	2.0	23.0		

【結果の分析】

- ・教科全体として、全国平均正答率を下回っている。
- ・全国平均と校内平均の差が一番大きいのは、化学変化と原子・分子の領域である。多くの学校が3学期実施する単元を本校は1学期に実施したため、大きく下回ったと考えられる。いずれにせよ、定着が不十分であることには変わりがない。
- ・天気とその変化の領域では、大きく下回っている。理解度が低い単元であると考えられる。
- ・科学的な思考、観察・実験の技能・表現、自然現象についての知識・理解の3観点で、C評価の割合が、全国平均に比べ10%以上多い。
- ・5段階評定の分布では、2評価の割合が、全国平均に比べ10%以上多い。

【具体的な手立て】

- ・ステップアップ学習 では、年度当初より7年単元から復習を進めている。授業の度に確認テストを実施し、授業内での学習に集中するよう促している。また、月に1回程度、小テストを実施する。
- ・サマースクールで補習を行う。内容は、単元ごとの総復習と普通の授業ではなかなか難しい問題演習とする。本校サマースクールで設定されている時間だけでなく、理科独自で時間を設定し実施する。こちらも、発展、基礎の2コースを設定する。
- ・夏休みに宿題を課す。自由研究等ではなく、直接得点力につながるワーク等を宿題とする。また2学期はじめに宿題のまとめテストを実施する。
- ・1学期中間考査から、定期考査の範囲に20点程度、7・8年の復習単元を加える。
- ・単元「天気とその変化」の定着度が著しく低いので、2学期中に授業内で復習の時間を設定する。最後に単元確認テストを行い、定着を確認する。

【英語科】

	教科全体	問題の内容別正答率								
		リスニング	過去の文	未来の文	助動詞を使う文	動名詞不定詞	接続詞を使う文	比較を表す文	文型	長文読解
期待正答率	52.1	71.5	56.2	53.6	51.4	43.1	48.0	69.8	35.8	33.6
校内平均正答率	47.3	75.3	50.4	43.6	44.3	39.1	39.3	65.9	31.1	28.0
校内平均正答率 - 期待正答率	- 4.8	3.8	- 5.8	- 10	- 7.1	- 4	- 8.7	- 3.9	- 4.7	- 5.6
平成20年度 校内平均正答率 - 期待正答率										

【結果の分析】

リスニング以外の領域について期待正答率に届かない厳しい結果となった。やはり7・8年生からの積み重ねと何よりも復習することが大事であると言える。特に文法事項は学習したときは理解できていても実際に問題のとして出題されると正解することができない、という傾向もある。そのためには数多く問題に触れ、問題に慣れる、という面も大切である。

リスニングについては標準より上回り、聴くことに慣れ、理解が深まっていると考える。

【具体的な手立て】

教科書の本文には新出内容以外にもこれまでの復習の内容が数多く含まれているので復習内容にも重点をおいていく。その際、実際の問題を用意し練習する時間を増やす。

音読に更に重点おく。声を出すことで英文の「型」を覚え込ませ、反復練習によって自由に使える「技」にまで高める。基本の形というのは応用範囲が広い、ということを実感させる。

語彙力を高める。7・8年の教科書単語を含め入試頻出単語をスペリングコンテストを通して習得させる。合格点に達しなかった生徒には合格するまで放課後に補習を行い、必ず合格するまで指導する。

これまでと同様に自分のことについて、またオリジナルセンテンスの作成を通して「書く」練習を続ける。また必ずALTの先生による添削指導をし、正確な英語を習得できるようにする。